

令和2年度「山もり・てんこ森 ～山・川・海の恵みを未来へ～」レポ

富江 文雄

10月18日(日)10:00～15:00

奈良県森林技術センター(高取町)

ポスト：全国豊かな海づくり大会イベントに参加しました。

出展は竹材を使っての自然工作で、ぶんぶんコマ作りを中心とし、‘数珠玉’のブレスレットをお土産として参加者にプレゼントしました。

当日、前夜まで降り続いていた雨もあがり少し肌寒く感じる程でいよいよ本格的な秋に入ったことを実感しました。

会員の有志10人が3台の車に分乗して、8時30分には予定通り会場に集合。

イベント開始の10時前には設営を終わり来客の入場を待ちました。

新型コロナ対策を厳重にするため、来場者はゲートで全員体温測定が行われ、マスク着用をチェック、出展スタッフ一同にはフェイスシールドが配られ、また客のソーシャルディスタンスの確保等々の制約がありました。



(スタート前の会員)

開場を期してたくさんの来客があるものと期待していましたが、当初出足が鈍く、手持ち無沙汰の観がありました。30分過ぎのあたりから徐々に増え始めると共に、会員が積極的に

来客の勧誘も行い、特に子供たちに人気の出し物ゆえに親御さんを交えての工作は、まずは竹ブレードの色付け、紐とおし、できたコマの試技の指導を行いました。

色付けを見ていると、子供たちの個性が何となく出ているのが分かります。明るい色を好む子供、暗く沈んだ色しか塗らない子供、ほとんどが小学低学年でしたが、既に個性が出てきているように思えました。



(男の子の色塗りを見るスタッフ)

今回のコマは孟宗竹を適当な大きさに切り、入念にサイズ合わせをして、バランスを考えて作成された村上さんの労に負うところが大きかったです。

初めは回すのに苦労していた子供が会員の指導で、‘コツ’がつかめ、ブンブン音を出すと大喜びでした。

お土産に出したブレスレット、数珠玉をみて懐かしく感じるお母さん方からどうして入手しているのかとの質問がありました。確かに最近ではあまり見なくなったのは事実であります。

用意していた80組のぶんぶんコマの内60組が消化されました。だいたい予想された通りの結果であったと考えられます。

午後になって急に来客が少なくなり、午後3時を待たずに終了しました。

参加者が地域の住人に限られ、多くを期待できないのは致し方ないと思います。